

歌林樸榘

九三九二

和書門			
二七四九〇	號	函	類
七六	冊	架	冊
一三	冊		

內閣文庫			
二七四九〇	號	冊	類
一三	冊	架	冊
二〇	函		

內閣文庫			
番號	和	27490	
冊數	13 (11)		
函號	202	87	



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



Handwritten text in vertical columns, likely a letter or official document. The text is written in a cursive style (sōsho) and is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some faint characters are visible, such as "敬啟者" (Respected Sir) at the beginning of a column.

明治十二年

歌林樸檄 第二十一

一廿子

憶 企都 茂 播 磨 都 智 耐 理

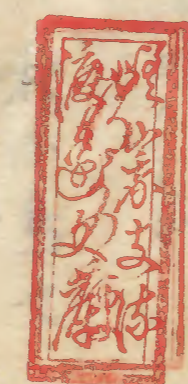
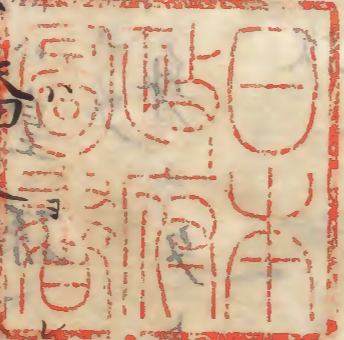
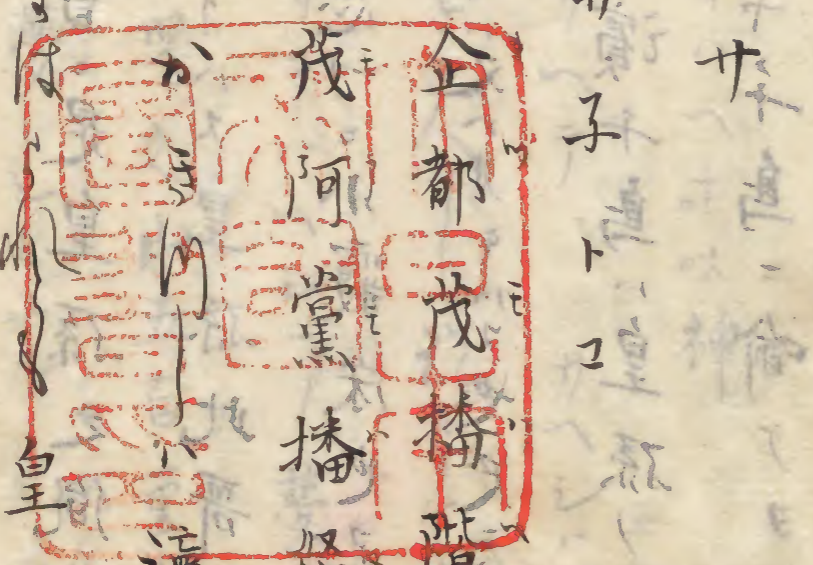
捷 茂 河 黨 播 怒 奴 茂 譽 播 磨 都 智 耐 理

譽 瀛 之 藻 也 吾 田 津 姬

皇 孫 然 也 皇 孫 奉

恨 實 床 也 鴨 皇

孫 濱 千 鳥 無 伴 喻 也 是 皇 孫 豐 吾 田 津 姬



一夜ニ有身ヲウタカヒ給フ遂ニ又火酢芥命ヲウム
 次ニ火折ヲウム度火出見尊ト号ス母ノ誓己ニ驗
 三寶ニ是皇孫之胤也然ニ吾田津姫皇孫シ恨テモ
 ノイハス皇孫此哥ヲ詠玉フ也
 凡思フニ小寝床也アタツヒメノ皇孫ト子又事也
 アモハ又ハカモハヌ也尺ニ鴨ハ皇孫ニヨストアレヒ姫ナリ
 三濱十鳥ハ皇孫ノ御身ニタトフニ歎又姫シ
 鴨ヤ十鳥ニ喩テヨムニ歎
 増林對林 第二十一



一サトカホリタニ

一作文 サクモシ

一サハハオウ神

一坂鳥 秋小鳥也

一サヘテ サヘシハ遮ル也

日ノ人トシテ見テ山嶺ノ如ク清々然
 一サテハハシノ夢

網兜之山五百重カクセル枕堤ノ崎丸手蠅師子
 ノ夢ニシユル

袖中抄ニサニ
 簡アレヒ終未分明

丸案ニシテハ師子ヲシトヨミチカハタニヨリ故人不

審シユル也子ノ字シゴトヨメハ其一ハキコエ網
児之山ノ五文字モ皆九千ハヘシコ縁アリテ
用ニ立歎アコエ山カ〇サテノサキシ五百重モヘタ
テシ也名取也依キノ崎モ名所也九千ハヘシハ
九千ト云網シ九ノキニ持也非獅子ニハ過去ノ
シ也子ノ児也必童ナラ子ト長ヲモ人シコト云也
イサヤコラナト云皆人也サレハサテノ崎ニテ九千
ヲツカヒシ人ヲ夢ニミルト世ノヨメんナンヘシ
一サホヒメ

諸髓腦ニハルツ漆ル神也云云 依保山ノ神ヨリ事ツ
コリテサホ山ノ霞ツ詠哥等ニヨセテ春ヲ漆ルノ
神トイヘリサリツイト春色ツ云説不用 又
龍田姫ヲ春ツツカサトシ證哥万葉梅哥ニ
わづらひ七ヨハシ一立田姫ゆめは花を凡まらす可
凡案此哥ニテ掉姫ノ如ク春ヲ領スルハ僻心
得歎是ハ金刻木ノ道理ツイヘリ立田姫ハ秋
ツ主ル神也秋ハ金也カハ春ノ木ノ花ヲ千ラスハ
秋ノ神ノワササハハニ巽風モ先ノ卦ノ遊魂ナ

須和名云劉向列女傳云古語ハ謂老母爲負
今案勝負ノ負ノ字也俗老母ノ名用カ自ニ
字者訛也然ハトシハ或老母或老母ノ名也
但惣而母ノ名ナレバ万葉ニハ母トシトヨメリ又其
児ノトシト取トヨメリ是ハワカキメニカヨヘリ又
公家ニモトシト云モノアリ又行成卿ノカレタレ
後撰ニ丁年トアリ丁年ハワカクサカリナレヘシ丁
年ヲハ或ハ二十或六十ト云事モアリ或年トヨム
ヘシト云リ奥義抄ニアトウカタリト云或本ハ東

哥ノ心ト云或本ニハアツニ語ノ心有アトウカタリハア
ツニ語ト同歟東ノ古語風俗ニシウトメヲサクサメ
ト云夏アレハソレニ叶ヘリ詞ヲ用ヘシ童蒙抄ニ云
四條大納言和哥論義此夏云キカセ人モカト云リ
凡案定家卿僻案ニ早草妻ノ説モアレト只
シウトメノトシナレヘシトシハ老母ノ事也若母ノトシト云
ハワレト早下サレヘシアトウカタリハアツニカタリ也
カタリハユトハト云心ナルヘシ
一サリラアサ

彼国ノ五ノ字ニ隼人ノサツミト万葉ニモヨメリ

一サカリコケ

一サシキ

一サシキ 棧敷也

一サハナシ

此の流は志賀の辛濟さちの河と大名人の船物

顯昭云サハナシハ近江ノ名也日本記云天智粟

津宮ニオハシテ佛寺ヲ作ラント勝北ヲ求メ給フ

御後ニ沙向奏曰乾方ニ靈嶺アリト帝其朝

其方ヲ敷覧アルニ光明アリ人シツカハスニウバツ

クアリ帝行幸ノ此山ノ名ヲ問セ給ニ古仙靈嶺

伏藏地依々名實長等山ト云テ失又其取ニ伽藍

立今ノ崇福寺是也此心ナラハサ波子カラトハカリ

ヨムヘキ事ナルヲ万葉ニハ志賀凡国凡ヨメリ又天智

天皇ハ奉ル紀納言長谷雄カ哥

此の流は志賀の河と大名人の船物

ミノ子御後也日本記ニ棧々浪栗林ト書キイサ

ク子イサキ浪也能因哥枕ニ近江シハサ波トイリ

此故ニ近江ノ外ハヨニ又更ト先達オモハレタリ

八条大相国哥合ニ琳賢カ哥

難波浮は浪の浦凡の照る月も海に

六条修理大夫難云サ、波キ、ナラハスミカト云テ

テコソサ、浪トオモハルニヤ似又事也但サ、浪サ、ラ浪

ハ同詞ツ廣畧也金葉ニ師俊卿

丸葉ニサ、浪ト云詞必ナカラニカキラス近江ノ内ノ

名所ナラハ可詠又無理ト存ナカラ琳賢カ難波

ニヨメルツ六条修理大夫トカメラレモカハ他國ノ海

川ニテヨシ事ハ毎用也サレモサナシサ、ラナシサ、

浪イソレモ同シ波ナレハ名所ナラハ又池沃海川ニテ

サ、波トヨシテモサモ難ハアラウサルヘシ

一サ、イタツニ

野

野の神の跡は月の光を透す

顕昭云草ノ名也故堀河源九府以綫青朽葉色

称九伊多津万色綺語抄ワカリ生タレ草ノ名也

松云ラレ葉ウラ葉ト云也

万葉ニ

草木ハ花ハ梅ハ人ト云々

草木ニ付テ如是ヨミクルシウラト云ハシタト云人アレモ
アシノウラウ葉クスノウラウ葉藤ノウラウハ皆上葉也下
葉ハ取出ヨムヘキ事ニアラス又弓ノウラウハスト云モ
未ノ苦也

丸云虎杖ヲサイタツト云ト雖連歌ノ書ナトニ
アリテ出證未見只若草ノ異名ニテスミスヘシウラ
ウ上ノ説是モ草ノ葉ニヨク叶ヘリサレモウラウサ
ヒシウラウカサシト云時ハ上ノ字ニテ心得テノシ幽齋
法印御口傳ニウラウハ心ト云也人ノ心ト云物ハ上ヘ

ハミヘ又裏ニアル故也サレハ心サヒシ心カサシト云理也ト
仰ウレ侍ル丸ト存ナカラ藤ノ裏葉ナト云詔ノ時ハ
少モ不叶

丸葉ウラウカサシウラウサヒシノ類ニハ裏ノ字ニモヨク
叶ハ心ト云理ニテ心得物ハウラウ葉ウラウワカミナ
トノ時ハ上ノ字ノ説ヨシト兩様ニ命テウラウヘシウラウ
カサハウラウサヒシノ詔ニ用テモ不苦ヘシウラウナク

物ヲ思ヒケル故ナトハ心ト云ニテモフトハ不叶裏
ノ義ニテ心得ヤスニ表裏ナキ也ソレモヨクイハ

一 聞ユ櫻ヲ尋求ル也何リモ求ルヲ狩ト云也又古今ニ
素性ノノ詞ニタケカリニ北山ニマカリ分ルトアムハ
松茸求ニコソ侍ヌレ中比ノ人ノ哥ニ

春鹿苑遥山嶺はあての櫻狩は人の心も

是サト云義ニアハス狩ト聞タリ松云狩ト云義ハ此花

園山ノ哥ヲ良暹亦聞ニ入レタレハマアマタノ人申メリ

但朝立テ行旅人ヲ櫻ノモト(来)ルトヤミルント云ヘシ

又東ニムラサキカリト云モ紫ノ花ノ咲タムニ馬ニノリ野ニ

出弓ノ答ニテツシヘテホリトラスルトツ申

丸云顯昭ハ万葉ノ長歌ヨリテクワカルト云シ正説思

ヒタナクモリ雨ハ流キ又ト云詞トクワカリ雨ハフリ

キ又ト云同詞也トヤレタレハ丸雲理ヲサクワカリトヨム

流ノ万葉ノ本シ信セウレトミヘタリ只丸雲理ハサ

クモリトヨムハ何疑ナシ此古今ノ哥ノ櫻狩ハ只櫻ヲ

狩事ト中比ノ歌仙達ノ心得テ雨ナクテヨミシカ

レタレハ櫻ノ字ニ思定ヘシ若万葉ノ丸雲理ヲサ

クワカリトヨムモソレハ又別ニクワカル詞ニサクワカルト云

詞ト心得ヘシ雨ハ流キ又モ遠ト心ウヘキ不可然コ

シモ落ノ字タルヘシ

一柳サヌニ

ハカシカカキクニシテ志めし中ハ柳サヌニ

伊勢齊宮ニハイニ夕男ヤヌニハ柳サヌオリニハオロサス

男シタル世ハシロストナシサレハ逢事ツイヤシムト云

題ニテ後頼ノヨメル也

一サナカウラ

サナカウラト同

山乃依奈葛様

山乃依奈葛様

又様葛尾カケリ本ノミ

丹波尾乃大いのみ乃真玉葛

又サナウラ尾ヨメリカ文字ヲ畧也

本ノミ

玉画ニむすやけ狭名葛

山乃依奈葛

此鬘ト葛トニキレ又ヘシ又玉楓ト云事アリ是ハ桂也

以上袖中抄

丸云サナカウラハ五味子カ兔絲子ト云藥ノ和

名也サナカウラ同シ玉カウラハ一切ノ物ヲホムル

時五トヲケハ世ノ鬢ツモ又草ノカウラリモヤヨヒ
テ云也ワレノハ哥ニテ思命ヘシ玉杵ヲ桂也ト註
スル事覺束ナシ日吉祭ニ用ル桂ノ木ノ枝ツ加
茂ノ祭ノ葵ニワヘテ是ヲモロカウラト云説アレハ
ワレヲホメテ玉桂ト云ナルヘシ玉杵ハ杵字カヘテト
ヨメハ玉カヘテナルヘシワレヲイワトナクアヤマリテ杵
ノ字ヲ書テカウラト讀ツケタルトミヘタリ自今
以後不可令混乱

歌林撰概第二十二

キ

一キヒナルイモシ

應神廿二年春 凡云春ト云迄ハ日本記 卷ノ始 文章ナリ 難波ニ幸ニテ

大隅ノ宮ノ高臺ニ登リ遠望 時妃兄姫西望

大難 兄姫ハ吉備臣ノ祖 御々別妹 帝回王ヲ對曰喜此比父母ッ意

ト爰温清竹篤ニトシ思召決路ノ海人八十人

氷キトミテ吉備ニ送五ノ夏四月兄姫大津ヨリ

發船行天皇高臺ヨリ望テ歌曰

あしちりし海 浪路 いやしる 小豆嶋 ありし海 也浪路

嶋並也 嶋並也 ちかひな 也 志海 也 たか

誰や 誰在也言 誰任せん也 誰任せん也 妻也又 在吉備

妹也 相見也 あいさつもの 相見也

四事記曰生吉備児嶋次生小豆嶋

丸云ヨロシキ嶋々々カタサレト云処ノ註昔ヨリ如是

誰任セルトアリタサレト云詞ノ註ハセスアラウチニシハ在

トセラレタサレト云詞任ト云心ニカサハス

丸思ニ夕文字ヨ濁テ出サレナルヘシ其故ハ兄姫ノ

船シミシクル、此嶋々障トナレハ誰シワサニ此嶋シ只

今ツキ出タルソト恨五フ也又キヒナルイモリノ註ニ

吉備ニ在ト云心ユカス今海上ノ船ヲ見テ吉備ノ

国ニアル妹ノヤリニハ備カ、ヨシ玉ハ此ナルハ在バアラ

ス兄姫ハキヒノ人ナレハ吉備ノ妹ト名ニシテヨシ

五フナルヘシナルハテニシクハ也ワレニテコソ 御歌ノ

結白ノアヒミツルモソクテニリハモヨク聞ヘ

侍レウマカ又嶋ヲ俄ニサシ出シテニセ又ハ誰シワサトア

ルニテ 餘情新ニ侍ル伊勢物語ノ山モサウニ堂

凡案近代備前小嶋酒十ト云ヤリノ名酒三ヶ国ノ中
ヨリ出タルニコソヤモハラ又ヘク腹カチヤミサリナ
云心也

一キタノフギナシ

其山山はるる浪はしし物もししはるる知るる

頭昭云藤氏四家ノ中ニ北家一人ノ流也是ヲ北ノ

藤浪トハヨメルナリ

ゆいりらるる南はるる北はるる

是ハ南圓堂ノ壇ヲ築トテ老翁出来テ人夫ノ中ニ

交テ詠ス此翁ハ常説ニ春日大明神一説ニ為

春日明神御使寧川明神築壇此哥ヲ詠隠

玉ト早云ニ或書ニ云閑院九大臣冬嗣建立南

圓堂給之時夢見見来テ

ふりらるる南はるる北はるる

委見杖棗畧記云ニ又南圓堂ハ真福寺ノ内ニ

トリテ南也補陀洛迦山モ天竺ノ南ナレハワレニ

ヨセテヨメリ觀世音ハ補陀洛ニラハスレハフタラ君

朝トハヨメリ此見ノ後毎謂

凡云此兒ノ夢無謂ト云コソイハレナキ義ナレカ
ホトノ靈驗アリシ事ナレハ現ニモ夢ニモ其瑞ナドカ
ナカラシ又大織冠ノ息ヲ不此等ト云其御子武智
丸ヲ南家ト云房前ヲ北家ト云宇合ヲ武家ト云
大織冠ノ御世ニ麻呂ト申シ京家ト云此四家ノ
中ニ冬嗣公ハ房前ノ裔ナレハ北家ナリ真福寺ハ
不比等ノ本願也

ユ

一 夕月夜ユリツリヨヨククヲノ山

正徹ノ説此哥ノ時ハ月ニアラス夕附夜也徹書記ト云人ナリ

丸云是ハ古今秋部巻軸ニ

夕月夜小舎ハ山ノ鳴麻ノ聲乃中ノ秋ハ暮ル

ト云哥ノ註ニ暮秋九月盡ノ心弄ニ夕月夜トハ

有ニシキヲ口シクテハ枕詞歟ト云ニ付テ此正徹ノ

説ハ出来ル者也朝月日朝附日夕月日夕附日

ケ様附字ハカキタレ氏義モ心モアハラス皆々月日

トカク正義也附ノ字ハ假テカク也カキタレハナニシヤキミカミレハアカレタ

朝月日向ムカフ黄楊柳澄フリスレハナニシヤキミカミレハアカレタ舊何然公見不飽

源氏物語一部、三國ノ間ノアウユル事凡ク聞ク、取
テ書集タルト云心也。イカニモ秘説也。丸葉ニ夢無
端ノ文字出處未見又ユメノウキハシト云詞源
氏以前ニアル事未知只道チキ処ヘモ橋シカケテ
行通如ク夢ハ思ハヌ方ヘモ心人行コトハリニテ
付タルカト云説正義タルヘシ

一ユフサレ

ユフサレトハ夕ニサレハト云事也。夕サレニ氏夕サレ
ノ氏ヨムハカラス哥ノ五文字ノ他言古ノ大夏トハ

是也。智葢連歌ニサレシクニ元春サレノ山トアリ

如何冬サレ秋サレ春サレ夕サレハ有朝サレ夏

サレハナシ夕暮ニ三首ノ各歌アル間今ハ夕サレトハ

ヨニヌ也。塩風ユシテ陸奥。野辺ノ秋凡身ニシ

ミテ。内田ノ稻葉音信テ是也。

丸葉ニ夕ニサレハト云義不叶五葉ニ去ト云字ヲ

書タリクシム時刻ハ早ク移去ルヤリニシホユル物テ

レハホメテ云ソメシ詞歌去ヤヌキト云心ヲ付テ口ハ

春ナレハ秋ナレハ又春ハ秋ハハ云今計也ナレハ

ト云義ハワロシ向云賞既故春秋ニ付ル道理ハキコ
ヘタリサレヨリ夏サレトハナキニ冬サレトアルハ如何答云
冬ハ四季ノ終ナレバ惜ム心アルヘシ向云タハアルモ
深ク侍レハ去コトシ悲テ付タル也朝モ面白キ
モノナレニ何故朝サレトハナキソ答朝ハアサホウ
ケトテ一日ノ始ニテ時刻惜ヘキ道理侍ラズサレハ
去ノ字付ヘキヤリアラズ昔ハ此義理ニテ有ケルニヤ
慈鎮

夕の哀状 泣くこころん 柴乃あみ戸の庭乃 凡

カヤリニタサレノ氏ヨメリ此哥ソタニナレハト義ニ心得
カタミサレハ智蘊ノ連哥ニ云サレノ山モアシキニハア
ラス是宗祇ノ御謔歎宗祇ハ常縁ノ傳リ信
ノ不政人也サアラハ常縁ノシホハナカハサルヘシ
又右哥三首アル今ハヨク又ト云説ハ甚不可然
カヤリノ制戒定家卿ノ筆跡ニアラスハ不可
用ホクト明石ノ浦月ヤアラ又春ヤ昔ト云ハ
カハリ侍タサレトハ是曳ノ山時鳥久方ノ月ノ
桂玉録ハ道ノ類ニテ幾度モ不苦詞也後

華凡ヲ入ナトリテ正理ニ迷フ勿レ

一ユウク
ユルク心又ノフル心也

初春此ノ神ノキホレホ第子めとる物よゆとる物也

是家持ヨメル万葉ノ哥也正月初子ノ日イマタ

男セタ午ノ歳ノ世ニ蚕ノ居処ヲハカスル也其第ノ

緒ノ処ハ水品ナトシテカサレ子曰ノ松ヲ持ソユ也其

緒ノユルク心也面ハ如是下心ハ余ソ延ル心ナリ子

日ノ松ニテ千年ノ余ヲ延ル事也此哥ヲ志賀

寺ノ上人意ノ余ニ引用ヒテレシセユルク心ノ哥

露なるは露草はさく秋風まよひまわりの虫のさく

一ユウノミナリシ

別々いよいよいよいよとてなる一ノ神さひくわりのゆの瓜楸

日本記註公筆云湯津瓜楸傷ハ梁脊ノ義ナリ

今云由紀ハ湯之義也主基ハ是次也湯ハイハヒキ

ヨムレ辞也津ハ語ノ助也瓜楸ハ其形如瓜也或ノ

説エツハ湯津杜樹ニテ作瓜ハ妻ノ義ナリ

奥義抄云素戔嗚尊天ヨリ出雲國ニ至シテ

翁光波也矣注スルヤリワレト此国ハ身也八人ノ子

毎年八岐大蛇ニ吞レキ此姫ヲ又トテラレヘシト云
尊世ヲエツノツニ及シトリナシテ御髪ニサシタリ云
トリナスト櫛ニナス事歟此櫛ハアキモノハツル
ユハシヤシヨノミツハレテニケルトテ懐ナレワマクシシ
ホニリニシヨメツヒサスト云リシメハ鬼也トリナス化也
又齊宮群行之時御額ニ帝櫛ヲサシテ日ミヤコ
ノ方ニ長リカヘリニシツル
基俊意ノ哥
かろしむをばよきもこがはれつるい

一ユメノタユタ

い下藤人かむしあれた舟のゆはきあいの物かあはと

初うの湯谷終谷浮尊也も奥もあはぬ

奥義抄云浪ニ浮テトカクユル也万葉ニ猶豫ト書

テタユタヒトヨム又寛字ヲユタト云ヨニアリ又ヒロシ瓦ム

隆縁云舟ニ入ル水ハ湯ト云フナユ是也是ハ汲捨

ルシユカクツト云ワレカリノキヲハユタト云ヘケレハ大船ノ

湯ハ多カウシスレハクヤト云心也又萬葉ノ哥ハ船

モ尊モタユタフ也但長能分別スル思ヒ哥云

レリ凡案察スルニコレハシボノ事ナルヘシカウカハ
ニモシホノユキタルアリ絹^{キヌ}ニモナリノシト云ハ皺^{シワ}ノヨ
リタルアリ障子ニユバタノアルト云不審ナカウ唐紙障
子襖障子ナトハ紋ヲ高ク雲母ニ置上ニスレハ是等ツ
云歟其故ハユバタト云義ハ袖ノ皮ノマリナル層^{ハタ}ト云ヨリ
附タル名トミヘタリ兵衛ノ太カノ紐イワレモシボノ行タル
ニ定タル故ニユバタト云ヘハモホノヨリタル物ニ心得タル歟
思ツシラヌハ畜類ニ同シ哥人ハ多クレヒヤリノムツカシ
キ事ヲ書留テ今ノ我等ニ智慧ヲ付玉フ頭昭ノ御

心根アリカクキ支也大知識也大仁者也此道此法橋
ホト功忠アル人毎之読市ニ定家郷哥学ニ頭昭
也此兩人ノ御思ツシラヌ好キ冥加アルヘカラス何ニテモ
編置レタル書ヲ見テ何カ思ハテ結句アシキユトアル
誑^{ウソ}辨^ハシサスルアリ心得ヌ支也ヨリトアシクト書留テ末
代^シニシラシメト思心ヲ感ニ一切ノ物本ヲハ戴テ見ルヘシ
一ハサハリ^ハシラシメト思心ヲ感ニ一切ノ物本ヲハ戴テ見ルヘシ
梅^{ウメ}ノ枝^{エダ}ノ末^ハノ花^ハノ色^ハノ白^クナルヲ見ルヘシ
頭昭云ユサハリハユサワリト云遊也ハトフト同音也

也 源昇ハ融公ノ 二男也後撰ニ入内院大君ハ宗テカ世也内院ノ
御目集ニ入

凡云内院ノ下ニ人ノ名ニ内院ノ中ノ誰トアハヘシ内院ハ

取ノ名也 四境ノ祭ノ事イハリ 御代ニアリシ事ト

云夏ヲ末勅四境ト云ハ東ハ相坂南ハ木幡西ハク

スハ北ハクヲセ也奈良ノ 京ノ時ハ立田須广トハカリ

ニテ 今ニ方ハ 内ニ申サス人ノカタラレ侍レ凡

慥ナル出巡未見ハ疑多侍レ或書ニ云 鶴ハ不見

跡ト鳴故ニ彼カ尾ニ四年シカケ内ノ外ハ福災氏ニ

放テヤルニシト也但東山九府實無公ノ書ニ三内

相坂鈴鹿不破トアリ此外ニクヲニラ入ルニヤ或書

ニクヲニラ入ルニヤ

大和物語也 大和物語ハ 大和物語ハ 大和物語ハ

大和物語ハ 大和物語ハ 大和物語ハ 大和物語ハ

大和物語ハ 大和物語ハ 大和物語ハ 大和物語ハ

大和物語ハ 大和物語ハ 大和物語ハ 大和物語ハ

大和物語ハ 大和物語ハ 大和物語ハ 大和物語ハ

大和物語ハ 大和物語ハ 大和物語ハ 大和物語ハ

大和物語ハ 大和物語ハ 大和物語ハ 大和物語ハ

鳥ノ男ニシテハ...

許シテハ...

女...

古田...

...

...

...

...

ニ似タレハ...

祭鶏ニ本綿ツ...

一ユキハ...

...

...

...

...

一三キノサツハシ

付三キノ国

景行天皇 十六年 筑紫後国御木ニ到テ高田ノ

行宮ニ居ス僵タル木長九百七十丈此木

シ踏シ往来時人哥テ云

阿依志毛能 朝霜ハ消ヤスキニ ヨリニケノ発語也 游概能依鳥磨志 竿橋ニモ一橋也

魔幣菟耆弥 群臣也 伊和哆羅秀暮 渡也伊助語也 弥

剛能依鳥磨志

天皇何木トニ向至ハ一丈夫曰是樹ハ歷木也

未僵サル先ニ朝日ノカ、ヤカスニ杵嶋山ヲ隱シキ

夕日ニ河種山シオホフト申ス天皇是ハ神木也 アヤシキ

故ニ是国シハ恒御木国ト号クヘシニ 以上日本記

一三ナソコノオキ

海底津白浪立田何時越奈武跡之常見武 此十八字書前如此 細字ニ書置也

ワタツミノオキツミラナシタツタヤマイウカコエナシイモカアクリミン

ト付タルハアヤシル歎コレハ

日本紀應神天皇十六年秋七月以宮人尋田玖賀

姬示迹習舍人等曰朕欲愛是婦也若皇后

之妬不能合以經多年何徒棄其盛年乎即
歌曰

水底歴也 河津也 女子 心也 女水也 心也
心 致賀

仇御哥意者以致賀媛可賜何臣哉之由也水底歴
者忍義歎

丸云万葉ノ哥モ此御哥シ本歌ニシテヨム水底ハ
忍心也万葉ノ沖ハ奥ト云心坎底ヨリ奥ト云ケ侍
ナレハシワタツシ沖トハ何ノ心モナキハキニテオモシロカラス

於是播磨国造祖速待獨進之歌曰

三三志不潮 けりまのやまあり 播磨 いまのうかしくいふも
岩下也 畏也 吾養也 あれは

節日以致賀媛賜速待。私託曰三日潮其沉
急速故欲読早待之発語置此言也巖石

自嶺下洞之時人何不恐慎仍欲言恐悚之
発語引此辞并

一三ヤニカクシテ 顯宗天皇ノ父ノ御死骸ヲ埋メ所ノシルヘヤシ

近江ノ置目トイヘン光堰ヲ宮中ニシカセメリニセ

五ハ近江ヘカヘリタリ思シヨリ心ノ如ク古卿ヘカヘ

カセ五ノ時ノ御哥

カサメヨメノ御歌トイフハ
カサメヨメノ御歌トイフハ
カサメヨメノ御歌トイフハ

日本紀第十五ノ御山隱也利与礼五音通

一宮司ミヤノシ 一思頼シヨリ 冬ノ主祭也

一御八講ミカハノカウ

一三ノシロコモミヤノシロコモ 身代衣

蓑ハカサリシキル上着也又祈時塩物トテ出ヌ服也

一三十四シロ 水庭ト書石ヲ云ク

木陰ノ陰代ト云ク谷川ノ水ハ一ノ月ニサカ

一水陰草 稻也

一水懸草 萩ヲ云ミリハキ也

天竺川ノ水ハ一ノ月ニサカ

一三テリラ

宗祇説神ヘ進物ヲ云ユサハラヒ也又太神宮ノ

御祭ナトニ荷前ノ箱トテ色々ノ物ヲ入大内ヨ

リ以勅使被進ヲ云

オコセテ是ハ何ト云ハハ詠スル哥也

中納言俊忠卿テ俊頼占逢事意

神凡ヤスレ柏木ト云ハハ内ト云ハハ

投ル立ハ叶フ冬ヌハ不叶太神宮ニテノ占也

御網葉 日本純 三角柏 同史 三網柏 延吉式也

ミツノミツハ同

一ミヤミノテフリ

あゆみおのむけのむすに居してふらふてゆく

六条修理大夫

廣川ノ廣山ノノを概てゆくが志をなすり

是ハ供奉ノ人ノ手振馬副ノ手振ニヨセタリクテ

ミノ山ノウスハ飾馬ノ唐鞆ノ雲珠ニヨセタリ

うきまぬかめてゆきわすれぬれあはれんあはれ

アツミツハ東人ト云

甲人オホムをいひしやあはれんあはれんあはれん

サフルニ遊行世婦之字也ミヤテハミヤチ也キトテト

ハ五音同也ミリフリトハミリウチフリテアリク也

丸案ニ是ハキ下火尾フル也ミヤノテフリツ 詩語

抄云ハハナムケツ云トヤカレタリツレヲケニ庄キコハス

公實卿百首

ぬんかきよきよの別後いさやたてりうがもせよ

是ハハナムケトキユ万葉ノテフリハ都ノ奉節シ

一ニヤヒ

色々ノ註アル凡口傳ニハミヤコビタシ也凡俗ナル事也

イヤヒキ下シヒナビタシト云詞ノウラナリ

萩の花をばかひりくさむらさきもみぢのうらなほ

かきひらきさきもみぢのうらなほ

一ニクミノ浦ノハニユフ

かきひらきさきもみぢのうらなほ

紀伊ニテラス伊勢ノ名所也但クミノ、詣トテ人ノ

モトツカハシケル

道牟阿闍梨

高の所わきよきよの別後いさやたてりうがもせよ

是ハ紀列熊野也童蒙抄ニ云ハニユフハ莖ノ皮ウス

クテ多産ル是ハイセトミクミノ、浦ニテリ大饗ノ

時ハ鳥ノ豆ツム料ニ代セノハニユフヲメスト云

一ニヤヒ

かみ又別ニササレヘキ哥ナシ只水ノ陰ナル草トルヘシ

一ニシツカカ...

又...

顯昭云ニシツカカハ常盤林ノ西ニアリ嵯峨野ノ行

幸ハ時御樂卑ス五奉ニ所也奥義按ニ云此哥ニ

必喜ノ御時北野行幸ニ御樂シ卑テトアリ哥ニ

ニシツカト有是ハ所ハ名也北野ノ方ニアルニヤ或人云

近衛シハニシ長ト云枇杷大臣ノ近衛司ノ時ヨシ玉

一水ハル哥也又彼大臣其時若人...

代々トシラトアルモ心得ス猶所ノ名ニテアルヘキコ

ソ追考御連岡ハ北野ノ方ニ有ニ野行幸ニ駄餉

ノ取也今案云後櫻ノ詞ニコシツカトニテアルヘキツミ

コシツカキテトイヒナシタル也ニノ字ツテト書ケル也

撰云枇杷大臣御コシツ卑テ御長トヨムヘカラスイク

ソノ代々ト侍卿岡也...

一ニシツクグシ...

果...

顯昭云河江...

此の記はタツル木ツ云也世俗ニハ之ヲエリナト云又水脉

舟ト云テハミシヒキノ船トヨメリ

ミソツクシ
其思衝石心はくしてあり

ニハニユヌトヨメル歟又土佐日記云ミソツクシノエトヨリ

出テ十三日付河尻ニ入ト云リ国史ニ難波津ニ始立

遷漂之由アリ其年月可考據津ニミソツクシ

ヲハタテラレヌ身ツクシト云所モ有ハ外ニハヨシ

事モハカウハシキニ万葉言

なまのふんいりさかきにはえゆけりあれはれを

又相模カ哥

何者此をいふは名も之はけりゆきふもあぬ人

何ニヨメル哥

河原もいふとあはる遷標もあはる

能因哥松ニ水ノフカキ所ニタツル木也

Handwritten text in vertical columns, likely a letter or official document. The text is written in a cursive style (sōsho) and is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. There are several red ink seals or stamps interspersed within the text.

